

右京区基本計画策定委員会
第4回 魅力ある都市環境のまちづくり部会（摘録）

日 時： 平成21年12月1日（火）
午後6時30分～午後8時30分
場 所： 右京区役所5階会議室1
出席者： 土井部会長・石川委員
石田委員・大西委員
新妻委員・山下委員

次期基本計画に盛り込む具体的取組について

1. 人・自転車が安心安全に通行できるように

- 抜け道については、「カーナビ」への対処も考える必要があるのではないか。
- 道路が渋滞して住民が自宅に入れられないようなことが起きているが、観光客と地域に用事のある人や住民とを簡単に区別できない。
- 道路幅が狭いのが問題である。一方通行にして循環させるほうがいい。
- 道路幅の情報を看板等で知らせる工夫がいる。
- なんとかかなると思って入ってくる。通り抜けできないことを知らせる必要がある。
- 碁盤の目のようになっている京都市内の街中とは状況が違うから難しいが、工夫しないと混雑が押さえられない。
- 山陰線の高架化で混雑が少し緩和された。改善されてきているところもあるので、一方通行にできる道路を点検してみるのも良い。
- 車のナンバープレートの末尾番号を利用して通行規制を実施した国もある。
- 歩道を歩くと、自転車と電柱が障害となり非常に危険だ。
- 自転車は車道を通行するのが原則だが、車道も歩道も狭い中を自転車が通行する。
- 伝建地区（重要伝統的建造物群保存地区）から順に電線類の地中化が進められている。
- 連続設置されたガードレールは人が逃げられなくて危険だ。
- 歩行者にとってはガードレールが無いより、有るほうがいいたろう。
- 4車線にするより、2車線にして歩道も車線もゆとりを持たせたほうがいい。
- 地元住民からの多くの意見とまちづくりの計画とが上手く連携していない気がする。
- 住民の意見についても考えないといけないし、住民ももう少しマクロな視点で考えていかないといけない。そういう譲り合いがいる。
- 区民が右京区全体の立場で考える役割の組織が必要である。円卓会議と似ているが混同されないように別名称にする。
- 公共交通を最大限に活用すべきだ。
- 不法駐輪問題もあるので、場所によっては「自転車から公共交通への転換」も必要だ。
- 阪急と嵐電は「西院」で、バスは「西大路四条」となっているような駅名は、統一しておく必

要がある。

- 利用者目線に立った乗継・割引・案内が必要だ。
- 車から公共交通への転換を促すには情報提供活動がいる。
- 学校と連携して住民意識を変えていく取組ができないか。子供の頃から公共交通を利用する意識を持つと効果的だ。
- 幹線道路が整備され、更に公共交通への利用促進が進めば、北部地域の交通渋滞が緩和し緊急車両が使えない問題の解消にも繋がる。また、土地のない町なかではなく北部地域に施設等を整備できるようになり地域発展にも繋がる。
- 思い切った施策が必要ではないか。公共交通も採算が取れるようになればもっと便数が増える。
- サンサ右京まで地下鉄が延伸したことにより、どのような発展が望めるのかということを含め、もっと公共交通について情報提供活動をしたほうがいい。
- 現計画の観光ネックレス構想がきっちりできるといい。順番に回っていけるような仕組みを意識的につくっていかないといけない。
- 観光ネックレス構想は、嵐電・地下鉄東西線・京阪京津線を使って、観光地をネックレスのように回ろうというもので、新しいルート開発に繋がる。
- 住民意識の向上などソフト面も大事だが、道路整備などハード面の整備も重要だ。
- 学校で自転車の利用マナーを教えている。意識を向上させることも大事だ。
- たとえ学校で習っても、子供は大人のマナーを見て真似するのではないか。
- 今は放置自転車を撤去されても引き取りに行かない。

2. 身近な観光の魅力向上、よりよい生活環境づくり

- 情報へのアクセスのしやすさを高める前に、まず魅力ある情報を充実させておくことが、右京区民にとっても地域外の人にとっても大事だ。
- 地産地消の取組については、特別な日に公園などの特別な場所で朝市を行うより、地元の商店街に直接持って行けば毎日地産地消できる。
- 地下鉄駅で野菜の直売をしている。旬のものを安心安全にということを出だしは好調だ。
- 京北では木工品等も商品化している。
- 地産地消で生産者の直売は広がっているが、地元商店街の小売店と競合する問題が起きる。
- 公共交通は駅に近い人には便利だが、駅から遠い人は公共交通に辿り着くまでが問題だ。
- 電車はまだ安全だがバスは高齢者には利用しにくい面もある。
- 人と係わりたくないという理由でマンションに住む人が増えている。
- 少しお節介なくらいのほうが良いのではないか。困った時はお互い様なのだから。

3. 歴史と自然の活用 → 『右京区は京都の縁側』

- 初めて京都に観光に訪れた人はなかなか歩かない。京都に何度も訪れているリピーターへ、「歩く観光の魅力」を訴えかけると効果的だ。
- どの地域にも歴史はあるが、京都には千年の都という魅力があると思う。それを大事な資源として活用し、また整備もしていく必要がある。

- 他の観光地と比べ、右京区は意外と案内板が少ない。
- 日本語・英語・ハンゲル語・中国語等の多言語の案内板があればいい。
- 案内板には、現在地から目的地までの所要時間表示と回り方の誘導が必要だ。
- 京都はそれほど努力しなくても観光客が訪れるから丁寧な受け入れ体制をつくらないのかもしれないが、それではやさしさが足りない。
- 歩く道に沿って拠点ごとに案内情報があると良い。
- 駅には簡単な案内マップが置いてあるのがいい。
- ガイドブックはどれも同じようなつくりなので新鮮味がないのが多い。

重点的な取組について

- 緊急性で言えば、「区民計画会議」の設置になる。「歩いてめぐる観光」や「歩きやすい生活道路」などは、できることからやっていく。
- 「“歩く”を基本にした安心・安全のまち」なら、どの取組にもかかってくるのではないか。
- インフラ整備は、どの問題にも係わってくる。
- 観光もそうだが、幹線道路が整備されてこそ安心して歩けるまちになる。
- 人との繋がりとは全ての項目に関係する。
- 防災も幹線道路の整備と係わってくる話だ。
- 部会で重点テーマを検討するより、右京区の将来のイメージが明確になれば重点テーマが見えてくるのではないか。
- 右京区に足りないものということだと、幹線道路の整備ということになる。